

エボラ出血熱、デング熱、新型インフルエンザ……。私たちの目や耳に次々に感染症にかかわるニュースが飛び込む。私たちは感染症と隣りあわせで毎日を過ごしているのかもしれない。看護師ならば、感染症とどのように向き合うべきだろうか。デング熱患者が私が勤務する病院で見つかったという想定で考えてみたい。

感染症の患者は医療機関を受診するだろう。何より先に医師、看護師、病院スタッフがその感染症の予防接種を受けて、免疫力をつけておく必要がある。また、感染症の最新情報を院内で共有し、患者が見つかった場合の対処方法や受け入れの仕組みを構築しておくことが大切だ。また、受診した患者がキャリアになって他の患者に感染させることも考えられる。感染症が疑われた段階で、見舞い客などの立ち入りが制限されるエリアに移動してもらう必要がある。

さらに、患者本人とその人の家族は感染の事実を知って不安を抱いているに違いない。看護師は「入院はどれくらいになるのか」「仕事に復帰できるのか」などの質問を受けるだろう。その際に、質問に的確に、そして真摯に答えるなければならない。感染症を担当する看護師は感染症の知見を広げるだけでなく、その後の生活への不安にも対応できるような社会経験を積んでおく必要もあるように思う。

この夏、アメリカのいくつかの州が西アフリカのエボラ出血熱流行国からの帰国者を強制隔離する方針を表明した。これに対し、「彼らはヒーローではないのか」とオバマ大統領が涙ながらに訴えたという報道があった。

私自身がエボラ出血熱の流行国で医療業務に従事できるのだろうか。感染症の知識、患者をサポートする意欲、社会経験。きっと感染症に携わる看護師になるには、患者を思いやる心を勇気に変える力も必要なのだと思う。